

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します！ **受験生特集**



イラスト・渡辺 正博

学生ライターがキャンパスライフをご紹介します! 就職課「マスコミ講座」受講生＝12月号既報＝が同講座で培った表現力を披露し、受験生の皆さんにさまざまなキャンパスライフを教えてくださいます。

- 生田キャンパス
- 神田キャンパス
- 大学といえばゼミナールー「ゼミ

連」って何?

- グラウンドで熱い応援 一緒に行きませんか
- 友達を作りたいあなたへ サークルに入ろう!
- こんな専大ライフも
 - ・ テコンドー普及へ学内指導も 井上雅智くん
 - ・ 全日本82kg以下で優勝 総合格闘技でデビュー 中村圭太くん
 - ・ 学生の意識改革を 石塚直美さんから経営学部有志が就職支援講演会開催

【ニュース専修2月号6・7面】

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します! 受験生特集

生田キャンパス 屋上から眺める四季折々の景色



▲120年記念館屋上からの美しい夜景

生田キャンパスは、神田キャンパスと一味違う自然に囲まれた環境だ。南口からの通学路は住宅街を通り抜け、緩急ある坂を越え、やがて生田キャンパスにたどり着く。暖かい日だと、坂を上りきる頃には汗びっしょり! 運動不足も通学で解消出来るかも?

校舎は全部で9つ。おすすめは120年記念館(9号館)の屋上。見下ろす街と所々に森が混在する景色は、坂を上ってきた苦勞を忘れさせてくれる。ベンチもたくさんあるので、夕方、夕焼けを見ながら気の合う仲間たちと語り合うのもいいのでは。夜になるとバックライトも。他の教室の窓からも四季折々の山々を楽しむ。

学習のための施設も大変、充実している。約100万冊の蔵書を誇る図書館には、勉強するのに欠かせない資料とスペースが整っている。エクステンションセンターの講座は、公務員や会計士を目指す人など、キャリアアップの手助けをしてくれる。

情報科学センターには、パソコンが1200台もあるので、いつでも気軽に使うことが出来る。入学当初、まったくの初心者だった私も授業で基礎から学び、先日、ホームページ作成講座に参加した。使い方が分からない人も心配無用だ。

4年間のキャンパス生活。自分だけではなかなか手の届かないと思っていることも積極的に解決の方法を見つけることで、興味を広げていけると思う。大学は、そのようなチャンスを与えてくれる場だ。(文3・高橋奈津子)

【ニュース専修2月号6・7面】

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します! 受験生特集

神田キャンパス 周辺は魅力いっぱいの古書店街



▲掘り出し物を探す人でにぎわう神田古書店街

地下鉄神保町駅を出て、靖国通りと専大通りの交わる「専大前」の交差点に行きあたる。オフホワイトの外壁のビル。最上階の側面に「専修大学」の文字が見える。神田キャンパス1号館だ。地上15階、地下3階の都市型高層キャンパス。法学部の2～4年次と二部学生が学んでいる。全国の大学でも数少ない「法廷教室」もある。

14階の「喫茶室」は、ランチタイムとなると、約150ある席が埋まる。人気は日替わりパスタ。ここの東西の側面は、それぞれ大きなガラス窓になっている。西側の窓からは秋葉原、神田方面の景色が一望。東側の窓からは眼下に広がる北の丸公園の木々、大きな金のタマネギを頭にのせた日本武道館が見える。さらに遠くへ目を転じると、東京タワーと六本木ヒルズの新旧名所が。

キャンパス周辺も見逃せない。まずは世界一の規模を誇る神保町の古書店街。靖国通りの南側を拠点にずらりと並ぶ。文学、社会科学、医学、芸術、スポーツ、法律関係などさまざまな専門書店がある。2、3軒の書店を覗くだけで時間があっという間に過ぎてしまう。古書店街を抜け、駿河台下の交差点を直進すれば、スポーツ用品店が軒を連ねる。交差点を御茶ノ水の方に坂を上ると、楽器店、中古CD・レコード店がひしめきあっている。

神田キャンパス界限は「エンターテインメントの宝箱」だ。五感をフル活用して楽しむこと、保証付きである。

(梅野洋平・法3＝福岡県福岡高)

【ニュース専修2月号6・7面】

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します！ 受験生特集

大学生といえばゼミナール-「ゼミ連」って何？



▲インナー大会実行委員のメンバー

生田キャンパスの生田会館3階にはゼミナール連合会の本部がある。大学にはゼミナールという授業があり、各学部教授が担当する専門分野の研究に、学生がゼミ生として参加。議論や課題に取り組んでいる。ゼミナール連合会(以下ゼミ連)は経済・経営・商学部があり、それぞれ15人ほどで構成される。加盟しているゼミは24。

11月22、23の両日。第43回日本学生経済ゼミナール東京・関東部会 インナー専修大学大会(以下大会)。専大は8年振りに大会実行委員会本部校となった。大会では、他大学のゼミナールやサークルとテーマごとの討論をし合う。
大会実行委員長を務めた清水純一くん(経営3・加藤茂夫ゼミ)に聞いた。

—活動内容は？

「主にインナー大会と学内大会の開催・運営にあたり、他大学や学内のゼミとの懇親会を設けたりしています」

—メンバー構成は？

「3年次生が中心。ゼミ連会員は、ゼミ連に加盟しているゼミから選抜されます」

—ゼミ連のいいところは？

「他大学と交流する機会があることです。さまざまな知識や考え方をを持った人と触れ合うことで、幅広い視野で社会や経済を捉えることが出来、自分の専門研究分野に対しても理解や関心を深め、学問的な位置付けが出来ます」

—得られるものは？

「インナー大会などの大きなイベントを自主的に企画運営し、成功した時の達成感ですね。社会で活躍している人と接する機会もあり、社会人とは何かを学びました」

—最後に新生にメッセージを。

「目的を持った学生生活を送ってほしい。サークルや勉強、ゼミナールなどを通して、充実した4年間にして下さい」

(岸裕介・文3=埼玉県・越谷北高)

【ニュース専修2月号6・7面】

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します! 受験生特集

グラウンドで熱い応援 一緒に行きませんか



▲専大の旗の下、応援に力が入る

専大体育会には、43の部と2同好会がある。一般サークルと違うのは、しっかりとしたバックアップと整った設備の中で活動出来るという点だ。

私は本紙「ニュース専修」の「専大スポーツ」を担当するサークルに入っている。高校時代までずっとスポーツをしてきたが、大学では新たなことに挑戦し、思う存分充実させたい。客観的に見る立場になってみようと、見つけたのが「専大スポーツ」だった。

た。

今まで取材してきたいくつかの部を紹介しよう。

まずは野球部。80年以上の伝統を誇り、東都大学野球前チームの中で最多優勝回数を誇る古豪として知られている。現在は2部リーグ在籍だが、1部復帰を目指し、伊勢原グラウンドで日々練習に取り組んでいる。入部してまず向かったのは、神宮球場。そこで東都大学野球1,2部入れ替え戦が行われた。相手は東洋大。応援団とチアガールの熱い応援が続く。こんな大舞台で試合を見ることが出来るのも大学野球ならではの。次はバスケットボール部。03年度(平15)は男女とも関東リーグ優勝を果たした。

アメリカンフットボール部。愛称「グリーンマシーン」。関東大学選手権(クラッシュボウル)に4年連続出場している。

大学日本一を決める甲子園ボウル出場を目指している。

陸上競技部といえばだれもが知ってる箱根駅伝。今年は出場を逃したが、昨年、一昨年と古豪として大舞台に立った。寒さに震えながら、選手たちが走る姿をカメラで追う経験は、得がたいものだった。

私は取材する側の一人としてこれからも専大スポーツを応援し続けるつもりだ。試合に足を運べば、選手たちの熱戦に夢中になること間違いなし!

皆さんもキャンパスにいただけでは味わうことの出来ない興奮を、試合会場で体験してみませんか?(文3・高橋奈津子)

【ニュース専修2月号6・7面】

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します！ 受験生特集

友だちを作りたいあなたへ サークルに入ろう！



▲笑顔でサークル勧誘をする学生たち

「大学生」を想像したことがあるだろうか。高校のようなクラス制度ではないため、先輩や友だちといった人間関係が作りにくい。地方から上京してきたならなおさらだ。余計なお節介かもしれないが、味気なさを感じるだろう。友だちを多く作りたいと思う人に、どうしたらよいか教えよう。ここで提案するのはサークルである。

専大には100を超えるサークルが存在し、4000人近い学生が「サークル・同好会」に所属している。僕もその一人である。休みにその部屋に行くのだれかがいる。それは同学年かもしれないし、上級生かもしれないが、同じサークルにいるから話ができるし、友だちも出来る。例えば、ゲーム、芸能、漫画、本の話。ニュースやまじめな話……。話題は尽きることがない。サークルに所属する数人に聞いてみた。

—サークルに入ってよかったことは？

「友だちが出来た」「共通の話題があるから一緒にいて楽しい」「遊びに行けること」

—もしサークルに入っていなかったら？

「今とは(交友関係が)違う」「淡々と過ごしていたはず」「違った大学生活を送っていると思う」

—あなたにとってサークルとは何？

「楽しいところ」「交遊の場」「(大学)生活の一部」「友だちを作るところ」

サークルは、自分の知っている世界を広げることが出来るし、同じ目的、共通の話題を持った友人が出来ると感じるチャンスだと思う。サークルに限らず、努力して入った大学だからこそ何もしていないよりも、活動的に楽しめる環境や友だちを作ったらどうだろうか。

期待を胸に、興味あるサークルを見つけたらぜひ、のぞいてみて下さい。(河田祐一・文3=埼玉県羽生第一高)

【ニュース専修2月号6・7面】

学生ライターが キャンパスライフをご紹介します! 受験生特集

こんな専大ライフも テコンドー普及へ学内指導も 井上雅智くん



「足技のスピードとキレの良さがテコンドーの魅力」という井上雅智くん(経営2)は昨年、全日本選手権に優勝、全日本学生選手権に準優勝(いずれもバンタム級)するなど国内のテコンドー主要大会で大活躍。今年の学生部長賞を受賞した。

韓国・朝鮮半島で生まれた格闘競技テコンドーは、足を手のように操り、踵落としや跳び蹴り、蹴りの連打など多彩な足技が特徴で足のボクシングと言われる。60年代、全世界に急速に広がり、競技人口は空手をしのぐとも言われている。サッカーと空手に励んできた井上くんは高3の時、その実演を見て自宅(船橋市)近くの道場の門をたたいた。現在は都内の道場にも出がいこをし、ほぼ連日、練習に励んでいる。

「日本であまり普及されていないのが残念。この魅力をぜひ知ってほしい」と総合体育館で友人たちに指導も始めた。アテネ五輪の選考会では、惜しくも代表の座を逃したが、今後は「世界を視野に置き活動を続けたい」と言う。

こんな専大ライフも 全日本82kg以下で優勝 総合格闘技でデビュー 中村圭太くん



中村圭太くん(法1)は、昨年の12月27日、総合格闘技のイベント「デモリッション」でプロデビューを果たした。

総合格闘技とは、ボクシング、レスリング、柔道といった競技の要素を取り込み、一発のハイキック、一瞬の関節技で勝負が決まる近年注目の格闘技。「中学生の頃から挑戦したかった」と言う。

「10年以上柔道続けてきたので寝技には自信が有ります」と、この世界に飛び込んで1年。格闘技団体『和術慧舟會』東京本部で練習に励み、昨秋、JTC全日本総合格闘技選手権の82kg以下級で優勝。その実績が評価され、念願だったプロのリングに立った。「今後はプロ初勝利を目指し、文武両道で頑張ります」。

(写真:得意の寝技に持ち込んだ中村(上) 提供:スポーツナビ)

<http://sportsnavi.yahoo.co.jp/>

こんな専大ライフも 学生の意識改革を 石塚尚美さんら経営学部有志が就職支援講演会開催



「学生のニーズに合った学生による学生のための講演会をやりたい」と、石塚直美さん(3年次)=写真=ら経営学部の有志学生15人が昨年11月、就職支援特別講演会を開催した。石塚さんは「何かをやりたくても『動かない』学生たち。その意識改革のために私たちの手でイベントを実現したい。3年次生にとって最も関心の高い就職に関する講演会を開こうと思いました」と動機を話す。

実現までさまざまな障害があったが粘り強く乗り越え、就職課の協力を得た。講師探しは、池本正純経営学部教授からのアドバイスもあって、コンサルティン

グの(株)ネクスト代表取締役社長の福岡幸一氏に依頼。プレゼンテーションを行った上で同氏ら2氏から快諾を得た。

開催2日間で3年次生を中心に延べ270人が参加。「テーマ(自己分析)がタイムリーだった」といった感想が多数寄せられた。石塚さんは「イベント企画関連の就職を希望しています。今回の経験はそういった意味でも勉強になりましたし、学生たちに少しでも刺激を与えたのでは、と思っています」と話している。

【ニュース専修2月号6・7面】